

Hepatic Guide™による肝腫瘍の診断・治療支援・治療効果判定の有用性を検証する
後ろ向き試験

研究の意義・目的

Hepatic Guide™の画像診断アプリケーションを用いて肝腫瘍の診断と治療後経過をワークステーション内にて後ろ向きに生存期間や局所再発との関連を検証することで、Hepatic Guide™が効果的な診断・治療ガイドや正確な治療効果判定に寄与できるかを明らかにします。

研究方法・期待される効果

近畿大学医学部附属病院にて肝腫瘍と診断された症例において、後ろ向きに画像検査データを既存のカルテ記録をもとに収集し、画像同期の精度や局所再発率などの治療効果判定の正診率の評価を行います。

1)肝腫瘍の局在診断の精度の向上、2)局所穿刺治療の仮想穿刺ルートシミュレーションによる安全なラジオ波焼灼術への貢献、3)治療前後の画像比較の自動調整による治療効果判定の精度の向上、などが期待されます。

研究期間

1999年4月1日から2015年11月1日まで。

研究機関

近畿大学医学部消化器内科学教室 および 放射線診断学教室

個人情報の取り扱いについて

氏名、生年月日、住所などの個人情報に関わるデータは一切使用致しません。

この研究は近畿大学医学部臨床倫理委員会の審査・承認を得ています。

説明を希望される方は下記にご連絡下さい。また、本研究に対して診療情報の提供を望まれない方はお申し出下さい。なお、その申し出により今後の診療等に不利益が生じることはありません。

<研究分担者>

近畿大学医学部消化器内科学教室

南 康範

TEL: 072-366-0221 (内線:3525)